

令和2年度第2回県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

日時：令和2年12月18日（金）13:30～16:05

場所：二戸ロイヤルパレス

1 開会

【佐々木副局長】

谷地委員さんがまだお見えになっておりませんが、定刻となりましたので、ただ今から令和2年度第2回県北広域振興圏地域運営委員会議を始めさせていただきます。

私は、本日の進行を務めます副局長兼経営企画部長の佐々木と申します。どうぞよろしくお願いたします。

それでは初めに、県北広域振興局高橋局長から御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【高橋局長】

県北広域振興局長の高橋でございます。本日は、御多忙の中、足元の悪い中御出席いただきましてありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の関係は、日本全国で感染拡大が止まらない状況になっておりますし、岩手県でも、11月以降、感染拡大が続いている状況でございます。県北地域では、先週の頭に軽米地区で1人確認されて以来、確認されていない状況が続いておりますけれども、県内では感染が確認されているところがございます。住民生活、経済活動等に深いダメージがあるといった状況下、住民の命と健康を守ることを最優先にしつつ、国、県、市町村のほか、企業や地域、個人などあらゆる自治体が連携して、社会経済への影響を最小限に抑える必要があると考えておりますので、皆さんにも御協力をお願いしたいところでございます。

そうした中ではございますが、県北地域におきましては、先週12日に三陸沿岸道路の洋野・階上間が開通いたしました。また、明日19日には、田野畑の尾肝要と普代を結ぶ道路が開通予定となっております。一部残るところはありますが、今年度中には概ねのところが開通して、来年中には全区間開通する予定となっておりますのでございます。

二戸の方につきましては、漆の関係について日本遺産に登録されたところがございますし、報道にもありましたけれども、二戸の漆生産技術を含む「伝統建築工匠の技」がユネスコの無形文化遺産に登録決定されたということでございます。また、御所野遺跡につきましても、6月から7月にかけてということで報道されておりますけれども、世界遺産に認定される期待が大変高まっている状況でございます。こうした動きを地域振興の絶好のチャンスと捉え

て、今後より一層、県北地域の魅力を情報発信していくとともに、その資源に磨きをかけながら、地域の活性化につながる取組を進めていく必要があると考えております。

本日は、前半に振興局の主な取組について説明させていただき、意見を頂戴したいと考えておりますし、後半につきましては、県北地域の重要な課題ということで、人材育成・担い手の確保について意見交換を行いたいと考えております。

本日は急きょ複数の委員から欠席という御連絡をいただきまして、人数が少なくなっておりますけれども、皆様の御意見を来年度の事業等に反映させていきたいと考えておりますので、限られた時間ではございますが、色濃い御意見を話していただければと思いますので、本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【佐々木副局長】

ここで、本日御出席の委員、それから県の出席者について御紹介いたします。次第の2枚目、出席者名簿により御紹介いたしますので、大変恐縮でございますが、お名前をお呼びいたしましたならば御起立いただきまして、その後御着席くださるようお願いいたします。

それでは、本日の出席者をご紹介申し上げます。

〈出席者紹介(別紙座席表、及川委員から時計回り)〉

3 議事

【佐々木副局長】

議事に入ります前に、配付資料の確認をさせていただきます。

本日の配付資料は次第、出席者名簿、座席表、それから次第の下にございます4種類の資料です。足りない資料等がございましたなら、事務局にお知らせいただきたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

それでは、次第の3、議事に入らせていただきます。県北広域振興圏地域運営委員設置要綱第4の規定により、運営委員会議事は局長が主宰することと定められておりますので、以降の議事進行につきましては高橋局長が行います。

【高橋局長】

それでは進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、次第の3、議事に入らせていただきます。本日の議題は、令和3年度県北広域振興局の主な取組についてでございます。最初に事務局から、資料1について説明をさせていただいた後、委員の皆様からご発言をいただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いいたします。では、事務局から説明をお願いします。

〈細越課長から、資料 1、3 について説明〉

【高橋局長】

ただ今令和 3 年度の振興局の主な取組を説明いたしました。今、県では予算の編成作業に当たっているところですので、これで固まりましたということではございませんので、皆さんから色々と意見を頂戴しながら、また作り上げていくこととなります。そういうところも念頭に置いていただければと思います。

それでは、ここからは、今御説明した令和 3 年度の取組につきまして、委員の皆様から、それぞれ一人ずつ御発言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、大変恐縮ですが名簿順ということで、及川委員からお願いいたします。

【及川委員】

大変素晴らしい取組内容だと思いますが、具体的に、こういった取組に関して、我々、地元にもそうですが、関東方面の方たちに、例えば観光事業含めて、コマーシャリングの手法をどのように考えているのかなというのをお聞きしたいなと思います。この具体的な取組に対して、どういうふうに PR をしていくのかなと。

【酒井産業振興室長】

私からは、観光関係について御説明させていただきたいと思います。

大きく、観光事業につきましては、県庁本体でやっている部分と、それぞれの広域振興局単位でやっているもの、さらに市町村が個々にやっているもの等があるわけですが、基本的な役割分担として、外向けに、岩手県全体の魅力の発信であったり、県全体の周遊促進については県庁の観光プロモーション室が担当しています。特にも令和 3 年度は、4 月から半年間、主に J R 東日本と連携して、東北デスティネーションキャンペーンという、東北 6 県を対象に、首都圏等を含めた大都市圏から東北地方に来ていただくキャンペーンを展開することになっておりまして、こうした取組の中で、岩手県全体の魅力を PR していくことになっています。

地域においては、それぞれの地域で実施されている体験メニューであったり、食の部分であったりを、より皆様に知っていただけるように、新メニューを開発してみたり、新しい体験観光の要素を加えてみたりといったような、底上げを図るところを支援するのが基本的な役割となっています。地域単位での PR は、それぞれの市町村でも取り組んでいますので、広域振興局としては、連携しての PR や、地域の素材の磨き上げの支援を行っております。

【高橋局長】

今、産業系の話をさせていただきましたけれども、例えば、地域振興プランに書かれた全体の取組をどう周知、PRしていくのかということですか。

【及川委員】

そうですね。具体的には、若者たちがとつきやすい、見やすい、例えばSNSとか、そういったネットを使った手法とか、そういったものはお考えなのかなということですか。

【細越企画推進課長】

例えば今日御説明した資料1、振興局からこれ全体を積極的にPRするというのは実際にはやっていなくて、考えていないというところが実際のところなんですけれども、それぞれの事業につきましては、それぞれ担当の部署の方で、いろんな広報媒体を使ったりマスコミに情報提供したり、SNSを使って周知したり、特に参加者がいるイベントなんかは周知が非常に重要ですから、それは各担当の部署で可能な限りやっているという現状です。

あとは、振興局の取組について、県内には4つの振興局があるんですけれども、県北だけでやっている“北いわて最前線”という広報紙がありまして、年2回、県北管内8市町村の全世帯に配布しています。次は2月末から3月頭くらいのところで配布予定です。その中で、振興局の取組を中心に紹介しています。それは他の振興局にはない取組です。

【高橋局長】

例えば、こういった資料とか、ちょっと説明は割愛させていただきましたが資料3の評価結果とか、そういったものについては私どものHPに掲載しております。

あとは、固まったもの、こういうことをやっていきますといったことについては、例えばこういう場もそうですし、市町村さんと話し合いをする機会とか、会議もございますので、そういったところで皆さんへの周知の御協力をお願いするといったところでございますし、それぞれの事業によっては、例えば高校生とか中学生にキャリア教育するような場面では、それに合った形で、SNSを使ったりとか、事業の役割に分けて、いろんな手法を使いながら周知を図っていくことになろうかと思っておりますので、御理解をお願いしたいと思います。

それでは次に、川代委員、お願いします。

【川代委員】

私の方からは、若者の地元就職・定着支援ということで、今までも色々やっていただいております。それで、地元企業訪問ツアー、これはすごく有意義なことだと思っております。子どもたちに地元企業を知ってもらうということは、今までそんなにやってこなかった、

最近何年かで増えてきたところですが、知ることが一番大事かなと思っていて、どんどんこういうことを積極的にやっていただきたいと思っております。

それから、アパレル関連の話なんですけれども、毎年支援していただきまして誠にありがとうございます。学生デザインファッションショーなんですけれども、久慈では1回しかやっていないということで、二戸・久慈両方の地域でこういうことをすることによって、若い人達にアパレル産業に興味を持ってもらえるのではないかなと思いますので、ぜひ久慈でもまた開催していただければと思っております。アパレル振興会の人に聞くと、久慈でやると金がかかるという声が聞こえてきたこともありますので、ぜひもう少し、少しだと思しますので支援していただいて、久慈でも開催していただければと思います。

【酒井産業振興室長】

御意見ありがとうございます。

最初の、地元の子供たちに地元の会社を知っていただく取組についてお話がありましたが、現地の事業所様と連絡、調整をさせていただいて、実際に作業している場面に高校生を連れて行って見ていただく形のツアーだったり、事業者の皆様会場に来ていただき、集合形式で生徒さんに事業の内容や、就職した際の諸条件などを教えていただくような機会を設けさせていただいております。就職を間近に控えている子供達を対象にしたものから、高校1年生を対象としたものまで、もっと早い段階の中学生や小学生に、縫製業などのものづくり体験をしていただく事業の中で、今日御参加いただいている委員の皆様のお事業所にもお世話になっているところでございます。具体的な成果がどのくらい出ているかということは、なかなか計りづらいところがありますが、地元の子どもたちに知っていただくということは、大事な取組だと思っておりますし、また、特に県北地域につきましては、大学等の高等教育機関への進学に伴って、管内から出てしまうこともございますが、都会に進学、就職したあとのUターンの選択肢として考えていただく機会として、引き続き取り組んでいきたいと考えているところでございます。

【瀧澤地域振興センター所長】

アパレル産業は久慈、二戸両地域で主要な産業ということで、大事な産業ということになっています。そういった背景も踏まえて、久慈での開催も考えていきたいと思っております。

【高橋局長】

なかなか、地元企業訪問ツアーもファッションショーも、今年はコロナの関係で中止とか、やり方を変えるというようなことで進めておりますけれども、来年度どうなるかということもありますので、そのあたりを色々と御相談させていただきながら、今年は中止した部分も

ありますが、来年は何らかの形でやる格好で考えていきたいと思っておりますので、そういった中で久慈での取組等をできればと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは小松委員さん、お願いします。

【小松委員】

資料1のⅢのところ、「アフターコロナにおける国内旅行客やインバウンド客の復活を見据え、『いつか行ってみたい』魅力あふれる産地づくりを進める」とあるのですが、具体的にはまだ決まってないのかなと思いますけれども、ここに観光を掛け合わせるのであれば、コロナ下でも実行できること、コロナ明けに備えることというのがあるかと思えます。コロナ下でも実行できることで、例えば漆を発信していくうえで、今クラウドファンディングがさらに盛り上がりを見せているところなんですけど、ユネスコ登録を記念してクラウドファンディングで販売をかけるとか、そういうことができるかなと思うところと、コロナ明けに備えることとして、おそらくコロナが明けたときには、かなりインバウンドが来るんじゃないかなというのが想定されます。そこで、日本には来ても北東北、岩手に来なければ意味がないと思えますので、そこに向けて今できる準備として、オンライン上のGoogleマイビジネスに登録するとか、海外の方が良く見る旅行の検索サイトのトリップアドバイザーを事前に登録するとか、登録の方法がよくわからない方も多いと思えますので、トリップアドバイザーのほうは、観光用の博物館とか美術館とかと、飲食店と、登録がいくつかに分かれております。その登録方法の説明会を行って、二戸の至るところが検索できるように準備しておくとか、海外の方が来た時にはキャッシュレスを求められると思えますので、キャッシュレス化を推進していくとか、といったことができるのかなと思えます。

個人的にこういうふうになったらいいなと思うところでは、例えば、いろんな所にシャッター街があると思うのですが、特に二戸の駅前のシャッター街は、来やすい、でも何も無いというところにペイントをして、写真を撮りに来たいという環境を出来るだけ低予算で作るとか、折爪岳をさらに有名にするのであれば、雲海テラスを作るというのも一つのアイデアかなというふうに思いました。

【高橋局長】

ありがとうございました。

それでは最初に、二戸の農林振興センターの方から、北いわて農産物魅力発信事業について説明をお願いします。

【村田農林振興センター所長】

資料1のⅢ8(1)のところになります、北いわて農産物魅力発信事業で来年度考えてい

ることについてお話をさせていただきますと、まさに小松委員からお話していただいた、コロナの状況でもできることということで、その一つが、動画等による産地の魅力発信といった部分です。これに関しては、これまでもいろんな映像を撮影したり、あげてきたのですが、さらにこれから、長い映像ではなくて、1、2分とか、短い映像を Youtube の岩手のチャンネルに掲載して、そのQRコードを商品に添付したり雑誌等に掲載したりしながら、それにかざしていただくことで Youtube に誘導できるという取組で、現場の様々な情報を発信していきたいということを考えておりますし、これからコロナが収束すると、またインバウンドが来るんじゃないかということで、その対応の一つとして、今年の1月24日に二戸市で宣言しました「フードダイバーシティ宣言」ということで、世界にはベジタリアン、あるいはヴィーガンといった食の特性を持った方がいらっちゃって、特に台湾では、10から20%くらいいらっちゃると聞いています。こういう方々に、どういう食材を生産して、処理して、お店で提供していけば対応できるのかといったあたりをシリーズで研修会を開きながら、農業の生産者、料理をするシェフの方、そういった方々を対象に研修会を開催していきたいと思っておりますし、最終的には、外国人の方が見るページがあるんですけども、そういったところに情報をアップロードして掲載していければと思います。英語なので自分であげることは難しいんですけども、対応してくれるところがありますのでそういうところを使いながら、今はまだ岩手県内でヴィーガン対応ということで掲載になっているレストランは少ないんですけども、次のインバウンドが来た時には、ここにたくさんの県北地域のお店が載っているような形になればいいなということで、そこを目指しながら取組を進めてまいりたいと考えております。今色々なアプリ等を紹介していただいたところでしたので、そういったものと連携できるかどうかも含めて検討しながら、また進めさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

【高橋局長】

あとはインバウンドについて、アフターコロナを意識したものという話がありましたが、なにかコメントはありますか。

【瀧澤地域振興センター所長】

インバウンドに関しては、トリップアドバイザーがかなり有効な手法だということで、研修会をしているところもあるのですが、この地域でも、これからのアフターコロナを見据えて、研修会も複数やっていくことになると思うのですが、取り組んでいかなければならないものだろうと。そこで、地域の人たちがネット等を使って情報発信をしていくというのは大切なことかなと思っております。いずれこの地域は、隣の八幡平市にインターナショナルスクールができるということもありますし、縄文関係は来年度指定の年と考えておまして、

他の平泉等の世界遺産、あるいは縄文として八戸とか鹿角等の地域と連携しながら情報発信できればと考えております。

【高橋局長】

よろしいでしょうか。

では次に、中田委員からお願いします。

【中田委員】

資料1のIについて、私も地元企業訪問ツアーに企業側として参加させていただいて、私たちもとても良かったなと感じております。何年か続いているんですけども、是非これは継続していただきたいなと思っております。どうしても、来ていただいた学生さんたちが知らないこと、福祉に対して、随分違ったイメージを持って帰っていただけるというのが、今後就職するうえでとても良かったのかなと考えております。

小学校からも授業で福祉についてお話してほしいという依頼がございますので、小さい子供さんのうちから、こういった仕事がある、こういった企業が地元にあるというのを知っていただける機会になっているなと感じておりますので、まだ結果は出ていないのですが、継続していただければありがたいなと考えております。

あと、3-1「医療・介護支援マップ（web版）を活用した地域住民への地域医療の情報提供」なんですけれども、これを必要とする方々というのは、二戸地域の場合は独居だったり、老老世帯が多いわけなんですけれども、web版にしてしまうと、使えない方もいるのかなとも感じていますし、知っている人は知っているけど、知らない人は全く知らないという現状だと思いますが、他に情報提供の手法があるのかなというのもお聞きしたいなと思います。

【高橋局長】

はい、ありがとうございました。

それでは、先ほどと少し被るかもしれませんが、企業訪問ツアーについて何かありますか。

【酒井産業振興室長】

重複になるかもしれませんが、御意見をいただいたとおり、御体験されているかと思うのですが、実際に参加された小さい子供達や高校生に「この事業所知っていますか」と聞くと、「初めて聞きました」という子たちが結構多いんじゃないかと思います。やはり子どもたちは毎年入れ替わって入ってきますので、今まで培ってきた生活の中で、地元の事業者さんに触れ合う機会があれば「知っています」ということになるのですが、高校生になって初めて

地元こんな事業所があるんだということを知るといことがございますので、御指摘があった通り、この取組は地道に続けていかなければいけないと考えております。

【高橋局長】

医療・介護支援マップを活用した情報提供について、二戸保健福祉環境センターから。

【田村保健福祉環境センター所長】

まず1点目の企業訪問ツアーに係る部分でございますが、介護の現場では人材確保の課題もあるというふうに伺っておりますので、小学校等の低年齢から様々な現場を知っていただいて、普及啓発する機会は非常に重要だと考えております。

それからマップですが、御指摘のとおりパソコンとかスマホをまだいじることができない方々もいらっしゃると思いますので、web版も必要ではありますが、やはり紙でも普及させなければいけないのかなと思っております。

【高橋局長】

Webを活用するというのが目的ではないので、目的に対してしっかりリーチできるようにやっていきたいと思っております。ありがとうございました。

では次に、森川委員、お願いいたします。

【森川委員】

今までの委員の方、例えば川代委員と同じように、資料1のIの地元企業の理解の促進の取組は、本当に欠かさず必要なのではないかなと思っております。まずは、子どもたちが、自分が生まれて住んでいる地域に誇りを持つというのが、やはり二戸地域には何もないからと思っているかも知れないのですが、ここはブロイラーとか、漆、アパレルもそうですし、たばこ産業とかも全国何番というところ、それから、ここに関係者がいますが、東北で初めてのチョコレート工場とか、そういうものもありますので、子どもたちに、誇りを持てる地域にあなたたちは生まれたんだよという、そういう自信を持つことが大事だと思います。細かく言えば、大きな企業、事業所でなくても、家族経営のところでも、その家の長男は別の仕事をしているけれども、どこかからその仕事を継いでくれるような子供たちも見つかれば、さらに良いかなと思っております。私は環境のほうから委員を仰せつかっていると思うのですが、小松委員もおっしゃっていましたが、町の中のシャッター通り、私も以前にシャッターに何でもいから絵を描いて賑やかさが欲しいなど日頃ずっと思っていて、この場でも以前に意見を出したことがあるのですが、魅力ある地域とか、地域コミュニティと言ったときに、シャッターが下りている、それから今にも倒れそうな建物がバス通りに建っています。もちろん

ん個人の持ち物の家なので、空き家に関する対策もとられているとは思いますが、それが本当に家、土地を持っている方の、どういうわけでそうなっているかとか、どういう支援があれば何とかできるとか、それから、両隣を続ければ広いスペースが取れて、それを何か中心市街地の活性化に使えるスペースとして考えられないかなという、そういう土台を整えてから、支援をしていますかとか、何かやりたいという人に気づいてもらえるような、そういう具体的な取組があればいいなと思っていました。最近雪道が怖いので、私はバスを利用したりしていますが、バスだと見える位置がちょっと違って、シャッターが余計に目につくんですね。ですから、そのあたりの痒い所に手が届く支援を皆で考えていきたいなと思っています。

それから環境に関してですが、資料1のⅡ6の(1)や(2)、環境フェスティバルの開催とか、県境不法投棄事案の出前授業とか、高校にDVDを持って行って出前授業に関わっていますが、2年ほど前に県境産廃の、どういう状況でどのように進んで、目に見えるゴミがどう片付いたかという15分ほどのDVDを作ってくださいました。それが本当にありがたくて、私たちがどんなに環境団体に活動してくださいと言っても、地味な活動ですし、興味とか意識とかがないと全然、次の人材というところにも関係してきますが、なかなか振り向いてはくれないのですが、ああいう映像ものがあるととても助かります。

【高橋局長】

ありがとうございました。

地元企業の訪問ツアーとかそういったものについてはこれまでも答えさせていただいたので、大変失礼ですが割愛させていただきます、シャッター通りというか商店街というか、そのあたりのことについてお願いします。

【瀧澤地域振興センター所長】

商店街のシャッターというか廃業ですね、コロナの影響でそういうことが加速しているというのも商工会の方からも届いていまして、実際には直系の後継者がそのまま事業を引き継ぐというのはかなり少なくなっているということなんですけれども、商工サイドでは、事業承継の相談とか支援制度を作りながら、進められているようです。そういう中で、お話の中にあつたように、地元、地域を愛するような心を子どもの頃から作るようなきっかけみたいなものは作っていかなければならないなと考えているところです。いろんなアプローチの仕方があると思いますので、考えていきたいと思います。

【高橋局長】

それから、環境の部分についてお願いします。

【田村保健福祉環境センター所長】

カシオペア環境研究会の皆様には、日頃から大変お世話になっております。残念ながら、新型コロナ感染症対策の関係で、今年は環境フェスティバル、出前授業を中止させていただいたところでございます。大変申し訳ございません。ただ、特に県境不法投棄事案の出前授業、これにつきましては、やはり県の責務としてずっと続けていきたいと考えております。さらに環境フェスティバルも、地域の皆さまと一緒に、どうしても何かを行政が主導するとなかなか長く続かないというのがよくある話ですので、皆様と一緒に、いろいろな手法を交えながら検討していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【高橋局長】

シャッター通りの対策、活用という部分は、御存じのとおりちょっと我々では出来なくて、市町村さんとか、あるいは商工会議所さんとかと色々話し合いをしながら、県内にも空き店舗を使ったりしながらチャレンジショップとかをやったりするような取組もありますので、そういった先進的な事例も踏まえながら検討していければと思っております。ありがとうございました。

それでは谷地委員さん、お願いいたします。

【谷地委員】

皆さんからも意見が出ていましたけれども、1つは、若者が定着するにはどうするか。例えば、資料1のⅠ(1)③イの地域おこし協力隊の定着支援とか、環境の関係で言うと2(6)創り手育成事業とか人材育成とか、いろんな部分で人を定着させたりというのが出てくるんですけれども、じゃあ実際この地域で定着させて、私たち企業としてはどうやって関わられるのかというところが、ちょっとこれだけでは分かりづらいというふうに思います。一つ一つというよりももっと全体的に繋がっていく、例えば持続可能な社会の創り手を育成するのであれば、どういった企業がそれに関わっていけばいいのか、若手の人たちにどういうふうに育ってほしいのか、この地域に残って、どうやって環境を作っていく人たちに関わってほしいのか、ちょっと見えてこないなという感じです。県境産廃では環境を守っていきましょう、じゃあどういうふうに守っていけばいいのか、何のために環境を守るのかというのはここでは見えない。もっと企業としてこういうふうに参加して、若手を育てて、弊社などの会社で働いてもらって、それによってこの地域が守られているんだよという、そういうロジック的なところがもっと見えてくるといいのかなと思います。

あとは、これも同じことですけれども、資料1のⅢ11 アパレル産業に出てくる学生デザインファッションショー、例えば今日もお越しになっておりますけれども、ミドリ久慈衣料さん

のデザインと機能が発揮されるものが好まれて着られています。うちの会社の若い子たちも、デザインと仕事での機能性の部分と、一緒に欲しいねと。例えばうちのような林業の会社では、どういった機能が必要なのか、学生さんと縫製会社さんと一緒に研究してこの地域に提供していく、それから全国に展開していくという、そんな仕組み作りもあっていいんじゃないかなと思います。僕から言わせると、アパレル関係だけが普及すればいいという感じなんですけれども、そこからさらに横展開して、地域全体が繋がって広がっていけばいいなというふうに思うので、何かもっとそういった部分でいろんなことに繋がって展開できるんじゃないかなと。別のところで行くと、ファッションショーなんかは、I資料1のI3-2に障がい者の方々のアートとかがあるのですが、そういうものともコラボしながら、障がい者の方々の活躍できる場所がアパレル関係にもあるとか、他の分野でもできますよという、障がい者の方々にも優しい、活躍できる地域ですよ。縦だけの社会になっているので、横の連携していくような仕組みづくりを振興局、県が繋いでくれたらありがたいなと思っていたところです。

全体的には、この地域でクリアしなければならない様々な課題の中で、大きな課題の一つかなというのは少子化です。少子化に対して支援していくというのが一番大きいのかなと思います。例えば、「おでかけi-サポ」なんですけれども、当社にも出会う機会がない社員が多くいるんです。例えばうちだと男性社員が多い。他の女性社員の多い企業とマッチングしてくれればありがたいなと思ったりするわけです。地域全体だけではなく、企業と企業をつなげていくのも一つかなという気がします。是非そのような取組をやっていただければありがたいなと思っています。よろしくをお願いします。

【高橋局長】

いろんな事業を組み合わせで連携したような形で、面として取り組んでいくことが大変重要だと思っていて、どうしても行政は縦割りの部分がありますので、今まで上手くできていなかった部分もあるかもしれないという反省もありまして、実は今年度これをやるにあたっては、それぞれの担当するところだけから話を聞くのではなくて、それを皆で聞きながら、私のところにはこういう事業があるよとか、そういうことも取り組み始めたところがございますので、今のところではこんな感じなんですけれども、次に期待していただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それから、i-サポの関係は何かございますか。

【田村保健福祉環境センター所長】

結婚支援ということで、県のi-サポで進めさせていただいて、会員数が少ないとか成功率が芳しくないというような課題はあるのですが、i-サポ事業を中心としながらも、御指

摘のあったように、企業同士のマッチングですとか、そういった御意見を伺いながら、県北地域に合ったような結婚支援策をどんどん進めていく必要があるのかなと思っておりまして、御意見を頂ければと思いますのでよろしく申し上げます。

【谷地委員】

決して批判をしているわけではないんですけれども、良くなるためにはどうしたらいいかというところを挙げただけであります。

もっと言うと、この地域には地域おこし協力隊が多く見られるんですけれども、この地域に足りないものがあるからお願いするのではなくて、ちょっと労働力が足りないからその人たち来てくれという考え方もあるかと思うのですが、使い捨てみたいな感じにも見える。この地域に足りないものを全国から募集して来てもらって、この地域に根付いてもらうというスタンスをもっと明確に持ってやっていかないと、彼らの人生があるのでかわいそうだなと思ったりもします。私の企業なんかは、そういった人たちがたくさん来てくれればもっといい会社になると思うので、是非ともそういったところを声かけていただければ、そんなこともあったらいいなと思ったりもしますので、地域おこし協力隊が私たちを使ってもらってもいいのかなと思いました。

【細越企画推進課長】

地域おこし協力隊ですけれども、まず協力隊として来る方というのは、自らその市町村を選んで来ます。そのきっかけというのが、前に旅行して良かったとか、あまちゃんとか、そういったことで来るんですけれども、市町村は基本的にどんどん来てほしいですから、PRは可能な限りやっています。それで協力隊の方が来るんですけれども、どこの市町村でも、まず首長さんが面談して、受け入れを決めていると思います。首長さんが、この人ならしっかり3年間全うして、地元に残って何かしらの起業をしてくれるということで採用していると思います。財源はほぼ国なんですけれども、そういった形で最大で3年間来ていただいて、受け入れるというのがこの制度になっています。今いただいた御意見は、まず管内8市町村の地域おこし協力隊の担当にお伝えしたいと思います。本人がどういった分野で将来そこに住みたいかというのが優先されるお話だとは思いますが、地元の企業さんも、地元でどういった協力隊が来ていて、どんな興味があって何をやっているかというところの接点が弱いのかなと思いますので、協力隊をコントロールしているのは基本的には市町村なので、企業さんとか、市町村の中のいろんな資源と協力隊を結び付けて、本当は農業をやりたいと思って来たけれども、2年経って実はものづくり起業したいという協力隊の方もゼロとは限りませんので、そういったマッチングを広げていただきたいなという意見が出されたということは市町村にも伝えて、振興局でも出来ることはやっていきたいと思っております。

【高橋局長】

ありがとうございました。

一応、ひととおり皆さんから意見を頂戴しましたが、そのほかに何か言い忘れたとか、そういうものがあれば伺いますけれども、よろしいですか。

それでは、議事につきましては以上とさせていただきたいと思います。

ここで5分程度休憩とさせていただきたいと思います。

〈 休憩 〉

【高橋局長】

意見交換という事で進めさせていただきたいと思います。まず、1回目の会議における要望に対する取組状況について事務局から説明を申し上げて、皆さんから質問等頂ければと思っております。では、事務局から説明をお願いします。

〈細越課長から、資料2についての説明〉

【高橋局長】

こういう形でとりまとめさせていただいておりますが、皆さんから質問等ございますでしょうか。

【谷地委員】

最後の再生可能エネルギーの件でした。この地域、昨年から北いわて循環共生圏、そんな所で勉強をしながらですね、横浜市とつながっているのでしょうけども、再生可能エネルギーといっても実際にこの地域にあるエネルギーを本当にきちんと使ってですね、再生してるのかなと僕は思ってますね。古舘さんが前回おっしゃってましたけども、ソーラーパネルを建てる、少し極端な話だったんですけども、今日聞いたときどうやってもう一度、本当の意味での再生をしていくかというところに視点がいないわけです。木を切って、エネルギーを作って、売電をして、それは繋がっていくんでしょうけども、ただその次のステップがないと植える、育てるっていう事がないとCO²がゼロになっていないような気がすると思ってしまう。そういった部分をもっともっと規制を強化してですね、本当に再生しているという事業所に対してはそのままでもいいでしょうけども、していないところに対しては何らかの罰則を設けるだとかもう一度再生しなさいという強い権限とかってできないのかなっていうのが1つあります。

調査を本当にもう一回してもらいたいのですが、太陽光もそうだし、風力もバイオマスの方も

なんですけども、実際、環境は壊れていないのかなと思ったりもします。大雨が降ってくると太陽光を開発したところは、山からオレンジ色の水が流れてきています。そういった状況を分かりながらも分からないふりをしているのかなと思ったりもするんで、実際的にどうなんだという所を本当に調べてもらって、エネルギーを作ってお金が入ってくるかもしれないけども、何か本末転倒みたいな感じ。地域を壊していくような感じもしますんで、そんな所も進めて頂きたいと思えますし、じゃあ私たちはそれに対して何が出来るのかを皆で相談してやっていく方法を解決していく方法を作っていくのが1つのステップなんじゃないかなと思ったりもします。

【細越企画推進課長】

ありがとうございます。

委員の御意見はまさにそのとおりで、基本的な県の考え方はこの資料に記載した通りという事になると思うんですけども。調査について、ちょっと細かい話にはなりますと、色んな開発規制法がありますからそれをもろろ満たしたもので、そういった所はしっかりやられているんだと思います。例えば、太陽光発電は今現在、国の規制が緩いというのがあって、県で条例を作って審査するといったような取組も進んでいるというように理解しています。もちろん何でもかんでも再エネ第一主義で、例えば大雨が降って下流が赤黒い土で土石流が流れたりするような事は決してあってはいけませんので、その辺は本当に環境と上手く調和しながら、地元の人たちがどういった地域振興の一つの方策、手段として両立を図っていくかということを皆で考えていきながら、あまり極端な方向は個人的にあまり良くないと思いますので、自然もあるしポテンシャルのある再エネも活かしていきながら住みやすい地域になっていければ良いかなと思ってます。

【谷地委員】

全部はそうだとは思わないんです。その中できちっとしている所もあればそうでない所も見受けられるところもあるので是正改善も含めてですね、進めていっていただきたいなど。そうすると私たち、私も林業をやってますけども私たち共にも昔みたいに木を切ったらだめだという規制が出てきたりするの困るっていう所が一部入ってきますので、木を切ってまた再生していくっていう事自体は地域の二酸化炭素を吸って環境を守っていくのに繋がっていくと思うんで、これが本当に持続できるような仕組み作りと一緒に取り組んでいっていただければなという風に思っております。

【高橋局長】

ありがとうございます。

まさに北岩手循環共生圏は、そういった事を含めた取組だという風に思ってますので、これからも色々検討させて頂きたいなと出来れば思ってます。

それでは、次に次第（２）の人材育成・担い手についての意見交換に入らせて頂きたいと思っております。意見交換に当たりまして参考資料を事務局の方で用意させていただいておりますので、こちらについて簡単に説明させて頂いた後に皆さんから御発言を頂いて意見交換を行いたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、事務局から簡単に資料説明いたします。

〈細越課長から、資料４についての説明〉

【高橋局長】

あくまでも参考という事で、県、振興局で取り組んでいることについて説明を申し上げました。ここからは、委員の皆様から、予めお知らせしている部分でございますけれども、それぞれの立場で人材育成に関する現状、あるいは現在取り組んでいる事、あるいは行政に望むこと、今の部分についての質問も含めてで結構でございますけれども、御発言を頂ければと思います。

それでは、恐れ入りますが、また同じ順番で、恐縮ですけれども及川委員からお願いできますでしょうか。

【及川委員】

九戸精密の及川でございます。前回もちよっとお話しましたが我々は、ものづくりをやっている企業になりますけれども、具体的には半導体の CPU、世界基準の大手メーカーさんの CPU の検査をするためのプローブピンというのを作ってます。最終的に 0.1 ミリとかですね、かなり細かいシャーペンの芯よりも細いですね、私の髪の毛よりも細い、どんどん細くなっていく製品になってきておりますけれども、このコロナ禍におきまして受注の方も、テレワーク等々の関係で若干ちょっと落ちてはいますが、昨年度から見ると倍の受注数になっております。今年も忙しく仕事の方はやらせてもらっている所であります。仕事の内容といたしましては、細かい金属の材料ですね、加工して作っていくわけですがけれども、加工機自体はどんどんオートメンション化されてプログラムを打ち込むと同じような製品が出来るようになってきてはいますが、やはり金属加工面ですとまだまだ職人的な要素がございます、やはり温度変化だったり材質のちょっとした材料の混合によって出来たものが若干変わってきたりですね。そういった意味でまだ昔ながらの経験が必要とされる業種となっております。ただ、そういった中でも人材育成を進めていくにあたりまして、加工技術者の後継者不足が大きな課題となっております。我々は、今、九戸村に本社工場と盛岡のみたけの方にも盛岡工場と 2 拠点で生産しておりますけれども、盛岡工場で見ますとここ 2 年くらいで加工技術者が 3 名ほど雇用の確保ができております。だいたい 20 代から 30 代の 3 名ほど。盛岡の方に関しましてはポリテクセンター岩手さんの方からいろいろ、半年間プログラム実習だとか機械の加工技術を実習した方を紹介して頂きまして、すんなり盛岡の方は雇

用することができていまして、盛岡工場で見ますと加工技術者も若返ってきているのかなというのが現状です。当然、現在も社内で教育、訓練を進めてまして基礎的な加工は1人で出来るようになっております。盛岡の方ですと基礎教育を受けた、公共職業訓練の実習を受けた方をすんなり受け入れることができております。ただ、一方で九戸村本社側の方ですね、いわゆる県北地域になってきますけども現在も加工、九戸本社側の方には加工技術者が5名ほどおりますけれども、一番若い方で35歳という事、なおかつここ5年間くらい新人が入ってきてないというのが現状です。当然ですね、毎年高卒の募集及びあとからの中途を含めてですね、各期間で募集の方は進めてますけども、なかなか募集者がいないというのが現状になっております。我々の金属加工の業種のみだけではなく全体的の県北の労働者人口の低下っていうのが大きく出てきているのかなといった所があります。

もう一つ最近感じているのが、我々やっているものづくりの分野になるんですけどもなかなか子どもたち及び全体的に興味年々薄くなってきてるなど最近思っております。当然ですね、地元の企業を知らないっていう事かもしれないし、何言ってるか分からないっていうのと、我々もPR不足なんですけども我々が今世界に行っても通用する技術を持って、どんどん世界的に事業を進めてますよってのを我々のPR不足かもしれませんけども。とはいえ、興味ですね、ものづくりに関する興味をいかに持ってもらうにはどうすればいいのか色々社内的にも考えているところです。当然ですね、小学校・中学校・高校・大学とインターンシップに関しましては、定例化しまして毎年実施していますけども、それだけでも全然興味をもってもらうことが中々難しいなというのがありまして今進めてますが、今年はコロナ禍の中で出来なかったんですけども九戸村のお祭りだとか、出前教室的なものを実施しています。当然、我々が今物を作っている製品のみならず、まずはものづくりの楽しさを体験できるそういった教室を社内を進めております。具体的にはジェルキャンドルとか色んなアクセサリありますけども、我々が今やっているのは顕微鏡見ながらピンセットで作業していきますけども、そういったアクセサリとかを顕微鏡を使ってピンセットで作りながら楽しいイベントをちょっと社内的にも進めております。こういった中でも少しずつでも、子どもたち、次世代を担う子どもたちにいかに興味を示してもらうのが課題だと思います。小学校の見学がきましてもやっているところだけさらっと見て、そのあとは戻ってしまうとですね、学校の生活に戻ってしまうので、そういったところで行政含めて依頼とかお願いしたいと思います。当然これまでの通りというかいわゆる地元企業のツアーは継続的に続けて頂ければなと思いますが、やはりもう一つプラスでもうちょっと深く入った形で、ものづくりの興味を持ってもらえるような何かイベントですね、ものづくりだけじゃなく福祉だとか農林水産含めてですね、そういった企業さんが集まってですね。やっていることはこういったものなんですけど、本当に楽しい、子どもたちが、変に言えばプラモデル作って楽しいよねって所から始められるそういったイベント。中々コロナ禍では厳しいと思われまますけどもそういった所で興味を持って頂けるイベントをもう少し県北地域も含めてですね、全体的に進めて頂ければなと

思っています。中々そこで体験したから、じゃあ、九戸精密とか村内の企業に県北の企業にそのまま入るかっていうのはちょっと難しいかもしれませんが、まず基礎的なところから色々体験して頂いて楽しいなっていう所から学んでもらえればいいのかと思っております。

【高橋局長】

はい、ありがとうございました。

ちょっと続けて3人目くらいまでお話をいただければと思います。それでは、川代委員さんお願いします。

【川代委員】

はい、ミドリ久慈衣料の川代でございます。

先ほどお話をさせていただいたと思うんですけども、地域の子どもたちに地域にある企業を知ってもらってのが非常に重要なんじゃないかなと思っております。当社は、久慈に出来て35年経ちまして36年目なんですけども、今年初めて近くにある小学校から見学の依頼がありまして小学校5年生ですね。職場見学の依頼が18名ありました。見学が終わってからお礼のお手紙を頂きまして、その中の一人が将来は久慈衣料で働きたいって言うようなありがたいお手紙を頂きました。本当に小さい頃から色んな職業とか企業を見るっていうのは非常に大事なのかなと痛感しました。当社も中学校・高校の職の体験を受け入れておりますし出前授業もお声がかかれば行ってお話をさせて頂いております。これもすべて久慈市内の人たちに会社を知ってもらうっていうのが一番かなという事で積極的に参加させて頂いております。中学校にいて「ミドリ久慈衣料知ってる人」っていうと誰も手を上げない。隣にコンビニがあるんですけども「大川目のコンビニ知ってる人」っていうとみんな手を挙げるんですけども、「その隣にある会社ですよ」って言うとお話させていただくんですけどもそういう事で企業を知って頂いていって、こういう風な職業の選択肢もあるのかなっていった所を感じてもらえればいいのかなっていう風に思っております。

あとは、社内での取組等ですけども社内では人材育成という事で改善提案制度とか自主研活動等、改善っていうのをキーワードにして人材育成をしております。また、今後は遅ればせながらというかISO9001を取得に向けて今、来年の6月取得に向けて色々やっているところなんですけども、各自のスキルアップを目標にしてですね、スキルアップを目指す仕組みを作っていければと思います。また、業界の技能検定等もあります。婦人子供服だとか紳士服製造だとかの技能検定もありますので、それを受ける体制づくりを進めていきたいなと思っている所でもあります。

【高橋局長】

はい、ありがとうございました。

続いて、小松委員お願いします。

【小松委員】

小松製菓の小松と申します。

私共の会社では、地元の小学校の工場見学を何十年も前から受け入れをして見学をして帰りにお土産をどっさり持たせるっていう大好きになるっていうことをずっとやっておりますが、そのほかに地方からの小学校の修学旅行生を南部せんべいの里ができてからですが、昨年から小学校の修学旅行の受け入れをはじめまして、四季の里で食事をして四季景観を見て堪能して帰ってもらうような事をしております。そういう事をする事によって知ってもらうという事を昨年からはじめました。実際、毎年できるだけ若い方、卒業生を入社頂けるよう活動を会社の方でしているんですけども、今年は特にコロナなのに地元の子はみんな外に行く聞いておりました、盛岡、仙台が多いようですがそれと東京そちらの方に全部行ってしまふ。盛岡の企業の方に聞きましたらかなり多数の応募が来ているそうで二戸には残らないけど盛岡なら残るんだなど。実際にそれ以外でも入社してから何年か働くと盛岡か仙台に若い子はいきたがる傾向があるなって何年か前から感じていまして、実際に私自身が卒業してからずっと東京にいて25年くらい帰ってこなくて、説得されて帰ってきたUターンの身ですが、帰ってくる前までは、お盆と正月だけ帰ってきたんですけども何もないって本当に思っていました。ただ、住んでみると全然生活にももちろん困りませんし今はボタンをポチポチ押せば何でも手に入りますし、自然と美味しい食べ物と良い環境で良い暮らしが出来るって事がもっと伝わるような活動をしていけないかなと感じています。こっちに帰ってきてから東京の友人が多いので、今年は1人も来ていませんが去年まで延べ7~80人の友人がたぶん来たと思うんですが、すごく二戸はいい所だっていう風に言って、友人だからリピーターも毎年来る方も年に2回来る方もいます。紅葉もきれいだし野菜も美味しいしっていう風に東京とか都会に住んでいる人からみるとそういう風を感じる人がすごい多いんだと思うんですね。若い人だけでなくリモートで働ける、今こういう時代になったからこそ地方で住んでいてリモートで働けるっていう形態がとれるようになってると思うんです。若い担い手だけを募集するのではなく、まず人口増やすという所と魅力ある町づくりをして人口を増やし、外の企業が二戸の中に色々な店舗を作ることさらに人口が増えるという良いループの形をとれるようになれば、理想ですが良いのではないのかなという風に感じます。若い人とか担い手を連れてこようという所だけにフォーカスするのではなく別の角度から結果増えるっていう形をとるっていうのも手法の一つではないかなという風に感じました。

【高橋局長】

はい、ありがとうございました。これまでの所で何か県の方からコメントありますか。委員の中で何か質問等ございますか。よろしいですか。

はい、それでは続きまして中田委員からお願いします。

【中田委員】

はい、私の方からは今、現在自分たちが勤めている施設の方のお話をちょっとさせて頂ければなと思っていました。新型コロナウイルス感染に伴いまして外に出る機会が大幅に減りましたし職員自身の行動の規制もかなり厳しくかけているつもりですので、一年近く市内から出ていない職員も中にはおりました。そういう意味でも随分環境が変わったなと感じております。研修関係も全て少人数もしくはオンライン研修に切り替わっておりますし、それに見合ってお客様の面会も全てオンラインもしくは窓越し面会のみというような形で行っている中で今は環境整備の方に力を入れているところです。Wi-Fi 環境だったりパソコンを増設したりタブレットの活用等々、今一生懸命進めている最中です。今まで人材育成という事で私たちが取り組んできたところは先ほどもお話したんですが、高校生対象だったものを小さいときから福祉の仕事はこんなものなんだよって小学校の段階からお知らせしていく、伝えていく必要があるのじゃないかという事で小学校、中学校、高校の方に出向いたり、体験学習、職場体験を受け入れてまいりました。特に資格が必要な職場ですので専門学校とかの方々は、資格取得のために職場体験が必ず必須で必要になってくるわけですが、今まで行っていたものが今年のコロナ禍で出来なかったっていうのがあったのですが、その中で山形県の専門学校から相談があってぜひ、二人の学生を受け入れてほしいとの申し出がありました。一人は二戸市内の学生でオンラインを使って2週間受け入れて、最後の2週間は体験学習という形で、もう一人はずっと山形県にいてオンラインでの実習というのを取り組んでみました。随分、大変だったんですけどもやれば何とかなるもんなんだなと実感させて頂きました。それで随分自信をつけて職員の方は、先日ですが一戸、一関、久慈の高校3校合同の授業に参加させていただく機会もございましたのでやはり今後時代に合わせてこういう風な事をどんどん取り入れていかなければならないかなと実感しております。まだ、就職、採用という結果には繋がってはいないんですけどもこういう風な事を地道に続けていく事で最終的には結びつけていけるような形で今環境整備に努めている最中です。色んな就職フェアとか県の方で主催してくださいましたし、ハロワークもしくはふるさといわて定住財団だったり、向こうの方でも企画して下さったものにいろいろ参加させて頂いているんですけども中々フィードバックが返ってくる所が少ないかなと。県の方では、アンケート等々みんな返して下さることが多いんですけども、結局何名の方が参加して何名の方が就職したんだよってという結果とか様子とか分かれば、今後私たちもそれを活かしていけるのかなと思っております。まず今は、先ほどもお話ししましたけれども自分たちの考え方を時代の合わせながら色んな間口を広げて取り組んでいかなければ

ればならないものだなと感じております。

あとは、最後にですけども県の方も資料4に地域活性化ってございます。その中でカシオペア若者カーリング振興事業を載せて頂いて、私もカーリング協会の一員としてとっても嬉しく感じております。今、自分が感じているものはせっかく若い方々が中心になって動いているものをコロナ禍だからとかお金がないからという事をおっしゃるのではなくて、頑張っている若い人を今後カーリングだけじゃなくてどんどん支援して行っていただきたいなと感じております。頑張っている若い人があきらめるのでなく地域のために夢を持ち続け活動ができるよう支援していただきたいと感じています。

【高橋局長】

はい、ありがとうございました。

それでは、森川委員お願いします。

【森川委員】

私は、今までの4名の方と違って生業に関わったり収入に関わる部分でない、まさにボランティアという観点です。私が所属する任意団体カシオペア環境研究会は、主に二戸地域を活動エリアとしていまして、活動の主旨は住民を対象とした環境に対する意識と知識を高める場の提供。つまり、皆さんに活動してもらって私たちは見守っているっていうそうしようという事で、そういう主旨を持っていましたけども全然、会員っていうのは最初立ち上げたところから減る一方で、主な活動の中にはフィールドに出る小学生、中学生、時には女性団体の所から依頼がありました。私たちの住む町に流れる大きな川、馬淵川の水質調査、水生生物による水質調査っていう所で活動を30年近く続けてきました。

ここで皆さんに問題です。九戸城を取り囲む自然の要塞、3つの川と呼ばれていますが馬淵川と白鳥川、さてもう一つ、三択でいきます。もう一つの川は何でしょう。A. 犬淵川 B. 猫淵川 C. 猿淵川。猫淵川だと思う人は手を挙げてください。猿淵川。次に犬淵川。ご協力ありがとうございました。正解は、猫淵川です。

そんな事を今まで話題にしたりして活動を進めてきました。そして、一番環境フェスティバルとか環境講演会とかまさに時間と暇のある、自分で興味がなければ来て下さいません。それで何とかしようと思ったのは、子どもたちの川調査の時には、多い時には54人とかそれをこちらでは保健所の方から、二戸市役所の生活環境関係の方からも来て頂きまして、それから私たち実施質、本当に2名から4名くらいしか出せなくて、そうすると子どもたち5人に対して大人1人は絶対欲しい。それは、川など流れの中に入っての活動なので本当に今まで1人も子どもも自分たちも流されなくて本当に良かったと思っているんですけども、そういう事で子どもたちの馬淵川の水質環境調べがあります。保護者の皆さんで子どもたちの安全を守るために出かけて下さるって

うの方っていうのを学校の方から保護者に呼びかけてください。今回人数はこうですから、少なくとも保護者の皆さん5人くらいは集めてくださいって。その裏には、地域の飲み水のもとになっている馬淵川の環境はどうかっていう所から興味がなくても興味を持てるんじゃないかなと。そんな感じで会員を増やそうと考えましたが、そこから残ってくれた人はいませんでした。やっぱり皆さん仕事を休んでくるとかそうならば有給休暇を使うにしてもそういったための有給休ってなかなか取れない。自分が病気したときとか家族が病気したときとかそういう時のために取っておきたいとかそういう理由でなかなか参加は、家業でご主人が仕事されて奥様は一般的な家事炊事、そういう立場にある人とかしか来てもらえなかったりしたのと、それが会員拡大にまでは繋がらなかったのが現状です。カシオペア環境研究会の主体となるのは、二戸薬剤師会で私も薬剤師会の一員なんですが、ところが最近、薬局というのは調剤薬局、中央の大手の薬局の支店となっているので会社の方針とかそういう所の理解を得ないと地域の活動への参加っていうのも、また薬剤師の人数もギリギリでやっている所がほとんどなので、薬剤師会の中で環境委員会とか環境部会とかせっかく持ってもやはり動けるのは数が限られていて、実質、薬剤師として参加したのは私ともう一人っていう感じで実は今まで活動を続けてきました。そして、何とかこれを私たちの年代よりも少なくとも20歳、30歳若めの方に引き継ぎたいと思って2~3年前にやっとな青年会議所のOB2人を見つけまして、その2人に会長と副会長をお願いして、まさに新しい会長、副会長それから顧問という名づけで私ともう1人、実質4人で出前授業の時もその人たち中心で活動しているのが現状です。でも、会員拡大にはいきませんでしたけども、今子どもたちが川っていう所は危険だから行っちゃだめだって言われてる所ですけども子どもたち及び教員、そして少なかったですけどもついてきてくれた保護者の人たちには、まさに意識と知識を高める場の提供が出来たかなという所で、人材育成まではいきませんでしたけどもそういう状況でした。

【高橋局長】

はい、ありがとうございます。

続いては、谷地委員お願いします。

【谷地委員】

まず、最初に地域の所で業界団体、林業の中です、資料4の7ページに書いてありました、林業の新規就業者確保支援事業で振興局さんの方で支援を頂きまして今、4年目5年目かな。久慈の高校生2年生を対象にしている、次の年の卒業していく子たちを対象に地域の森であったりとか林業とか製材関係のそういった仕事に実際に来てもらって体験してもらってっていう講座を1年に一度行っております。そのほかにこの協議会では、コロナ禍でなければイベントの所に機械を持って行ってその場で地域の人たちに林業機械の性能とかそういった面白さとか楽しさを体験してもらってそういった講座を行ったりしています。そういった部分を含めて林業の魅力であった

りとか今起きている実際の林業は昔の皆さんがイメージしている林業とは違うんだよって事を伝えてるって事をしていました。

もう一つは、資料4の8ページの農林水産業の40代50代、30代も含めて課題はなんであるか。担い手を確保するにはどうすればいいとか検討会の方にも参加させもらったりですね、そういった所で色々行っているところでもあります。自社だけでは解決できないところもあるので地域の団体であったり、同じような悩みを抱えている人たちを多く集めて解決していく方法はないのかなと、そういう相談し合う場所を久慈の振興局の皆さんからお手伝いを頂いてやっているのが現状であります。会社といたしましては、そういった林業の就業体験を含めてですね、積極的に生徒さんが来れる場所づくりにということでやってみました。先ほども高校生の勉強会を対象にして、その後、高校生の就職について実際に働いている場所に来てもらって見てもらう所も行っています、さらにその先に行きますと岩手県で行っている林業アカデミーという所と繋がってそこで1年間学んでもらって、最終的には高校卒業したあと林業アカデミーでまた学んでもらって実際的には戻って来もらう、うちの会社にはいってもらおうという風な仕組みづくりまでできているのかなと感じております。あと、当社は他にも木炭を作ったりとか木材を使ってチップを作ったりとかそこからバイオマスエネルギーにもっていったりとか、他にも建設業もやってますけども、そういった部分で若い人たちが働くためにもさっき出てましたけどもある程度途中から入ってくる人たちも多いですけども40代から50代の人もありますし中には60代で転職してくる人もいますけど、そういった人たちも働ける場所づくりも含めて行っております。決して、あなた無理でしょうねとかはなくてどこかで働ける場所があるんじゃないかと探して働いてもらいます。その人がしてきた経験を活かしてもらいながら、もしかしたら自分が思ってもない所に行くこともあると思うんですけども、地域の働く場所づくりという事で基本的には会社作りを行ってましたんでそこに断らないようにしているのが現状です。特に若い人たちに関しては、資格をとったりとかリラックスするための時間とかかかる費用ですね、そういったところを会社が負担してここ10年くらい続けて定着する仕組みを行ってましたけども、今年から厚労省の労働局が行っている助成金の事業なんですけどもそういったものも活用させてもらっていくところで始めたところです。ただ、難点があってうちのような会社だと計画を作るっていうのがなかなか難しいんですね。そしたら、色んな部分から助成金とか補助金とかもらうのに計画が必要だということです。計画を作る能力がちょっと足りなくてですね、外部からお願いをしなければならない所とかかなりあります。出来ればそういった人材の人たちが外にいたとしてもそういった人材がこの地域で働ける場所として繋がっていければ先ほどでた地域おこし協力隊の人たちの一つの活躍する場所になってくるんじゃないかなと思ってました。あと最近思うのは、うちの会社も林業の機械が多く入ってきてですね、様々な機械が出てきます。機械を使うと壊れてくるのでメンテナンスする人たちも、業界はそういった所に進んでいくんですけどもそれを支える側の人がいなくなってきたら大変な事でそういった部分も自社で抱えていかなければならなくなるという意味負担で、そういった部

分をもっともっと皆でシェアできるような形作りもあって進んでいくと当社の機械だけじゃなく他の会社の機械とかまで含めて繋げていけると色んな人が働く場所もできてくるんじゃないかなど。例えば、別の市町村だと関東の方でコロナで働きたくないなって向こうの方で働きたくないなってなったらこっちの方で紹介をして会社作りをして支援していくっていう仕事も私たち企業の課題になってくるんじゃないかなと思ってました。ぜひ、色んな人が働ける場所を私一人だけじゃ難しいと思うんですが業界団体とか地域のつながりの中ですら、解決していく方法ができるんじゃないかなという所でありました。

【高橋局長】

はい、ありがとうございました。

皆さんから一通りお話を頂きました。県の方からコメントございませんか。

【櫻井林務室長】

委員の皆様には貴重なご意見ありがとうございました。特に谷地委員には、林業関係、久慈地域で行っている木の仕事協議会、平成29年の設立だと思いますが、委員の御発言にもありましたが林業アカデミーの設立がやはり平成29年でございました。それから今4年が経過している所でございます。林業アカデミーは、毎年定員を15名に定めておまして新卒の高校生、あるいは大学生、あとはもちろん他産業で仕事をされていた方が途中でいらっしゃられて林業にという方ももちろんいらっしゃいます。これまで3年間、開講含めまして49名の方を育てました。県内で49名です。岩手県内で1700名ほど林業従事者の方がいらっしゃると言われていますので、数というのはまだ少ないですけれども毎年15名以上の方がそうやってアカデミーを巣立って谷地林業さんのような優良な企業さんに就職されているという事でございます。私から申し上げたいのは、人材の育成という事に関してとても重要な意識を皆さん持ってらっしゃると思うのですが、やはり谷地委員もおっしゃいましたとおり定着という部分がなによりも大事ではないのかなと思えます。新規の雇用という部分とそれに合わせて来て頂いた方の定着という所をしっかりと認識して頂ければと思いますし、それに向けて我々行政も最大限の支援をさせて頂きたいなと思います。谷地委員から御発言ありました資料4の7ページ目にあります「林業・木材産業」新規就労者確保支援事業、これは県内でも久慈地域のみで行っている取組であります。今回は、令和3年度の予算の関係は第一部の方で御説明いたしました。二戸地区でも令和4年度に向けてこの久慈地域の木の仕事協議会の取り組みを手本にさせて頂きながらさらにバージョンアップする形で行ってまいりたいと計画を立てております。残念ながらコロナの影響がありまして林業関係、原木の需要が落ち込んでおったり木材が動かないという事が今年ございました。そういった事から準備期間を1年、令和3年度はその準備期間という事で令和4年度の設立に向けて取り組んでいきたいと考えております。林業関係、林業は一つの産業でございますが林業が伸びていくために、

地域がさらに進行するためには色々な業界の方々、他の産業の方々との連携であつたり情報共有が何よりも大事であると思っております。最後、お願いになるんですが、今後とも色々な面で今後とも御指導、(御鞭撻)お願いしたいと思っております。ありがとうございました。

【田村保健福祉環境センター所長】

二戸保健福祉環境の田村と申します。

先ほど森川委員から御意見やお話があったところですが、私も平成8年頃でしたか盛岡保健所在籍時に青年会議所さんと一緒にイベントをやらせて頂いたことがありました。盛岡は規模が大きいからなんです、様々な仕事の若い方がたくさんいらっしゃって行政ではなかなかやれないイベントになって非常に刺激的な経験をさせていただきました。県や市町村、民間の方々もそうなんですが環境学習にあまり興味のない職員もいますので、活動を継続していく中でどうしても波があります。したがって、やはり地道に活動を続けていくしかないのかなと思っております。小学生の水生物調査から始まって、高校生で負の遺産ではありますが県境産廃事案を活用するなど人材育成に努めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【高橋局長】

前半の部分では、企業をちゃんと知ってもらうということとその中で興味を高めるイベントであるとか、あるいは小松委員さんの方からは地域の良さをもっと知ってもらおうという事も必要なのではないかということで、その辺も含めて産業振興室の方から何かありますか。

【酒井産業振興室長】

産業振興室でございます。

皆様方から様々な御意見をいただきありがとうございました。具体的に訪問ツアーを中心にお話があったかと思っておりますけれども、地元で能力をもった方々が定着していただくという部分で、就職という観点では、先ほど御説明したようなお話になってくるかと思っております。もっと前の段階として地域の良さを知ったりとか地域の魅力を知るという所を行政だけではなく、地域の企業の皆様だったり、NPOの方々との連携しながら、色々なアプローチで市民の方々に地元の良さを知っていただくことが非常に大事だと思っております。特に人材育成の関係でいきますと、我々は学生を中心とした地元定着支援が主になってはいますが、今日の説明にもありました未来づくりネットワークの取組の中で女性活躍やSDGsについての考え方などを、経営者の方々向けに意識啓発する取組を行っている所でございますので、色々な面からアプローチして、様々な人材育成に取り組んでいきたいと考えております。

【高橋局長】

皆さんからお話を頂いた部分について若干コメントも述べさせていただきましたけども、色々な御提案をいただいたと思っておりますので今後の施策にしっかり活かしていけるようにしていきたいと思えます。ありがとうございました。

何か皆さんから御意見等ありますか。

【谷地委員】

これはちょっと関係ないんですけども、宣伝だけ。本日 18 時過ぎから NHK でおぼんです岩手での木炭を生中継しますので、ぜひ御覧いただければなという所でございました。

よろしく願いたします。

【高橋局長】

ぜひ御覧いただければなと思えます。

それでは、若干時間が過ぎてしまい大変恐縮ですけども、これをもって意見交換を終了させていただきたいと思えます。この会議、今日は人数 6 人という事でもございましたけども全体は 15 人おまして皆さんから色々な意見を頂戴したいなと思えてまして色々な仕掛けをしながらやっていきたいと思えてますので、また次回は違う形になるかもしれませんがよろしく願いたしたいと思えます。御協力ありがとうございました。

事務局にマイクを返したいと思えます。

【佐々木副局長】

次第の最後のその他でございますが、皆さまから何かございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。委員の皆様には長時間にわたり御議論いただきましてありがとうございました。

なお、本日御出席いただきました皆様には、地域の食品の詰め合わせ、こちらをお送りさせて頂きますので御賞味いただきますようお願いいたします。今後とも引き続きよろしく願いたします。本日はありがとうございました。